

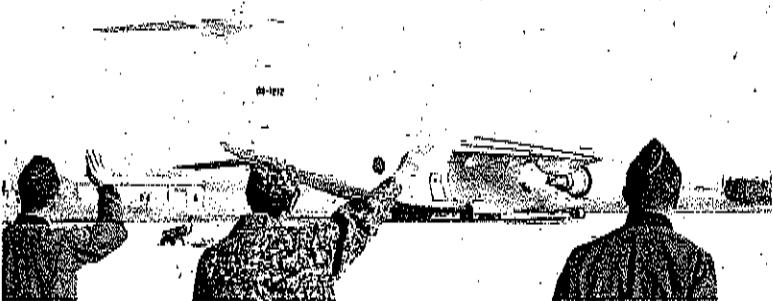
4/15 稲井

自衛隊機、月内に派遣

政府、ウクライナ支援へ

政府がロシアの侵攻が続くウクライナの避難民を支援するため、調整している自衛隊機派遣計画の概要が分かった。4月下旬にも輸送機を派出させ、6月末まで週1回、計10回程度、中東などから人道支援物資を周辺国へ運ぶ活動を想定している。計画は来週にも閣議決定。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の要請を受け、国連平和維持活動(PKO)協力法に基づいて、「人道的な国際救援活動」として実施する。複数の政府関係者が14日、明らかにした。

6月まで計10回程度



3月20日、ウクライナ支援のための防衛装備品を運ぶ航空自衛隊の輸送機=長崎県壱岐市の美保基地

状況を踏まえ、「指揮された支援を命め、政府としてわざわざ手配の可能性を検討していく」と述べた。岸信夫防衛相は参院外交防衛委員会で「政府全体で検討していく。関連省庁と連携して、やがて限りの支援を行いう」と語った。

政府は来週中に実施計画を国民、公明両党に提示し、了承手続きを経て閣議決定する方向だ。今月1日の閣議では、UNHCRに対して表布など支援物資の無償譲渡を決定した。自衛隊機とは別ルートでボーランドのフルシャフに運び、19日に引き渡しを予定している。

ウクライナ支援を巡って
は、自衛隊が保有する防弾チ

ヨツキなども同時に空自の輸送機でボーランドへ運び、ウクライナ側に提供した。

輸送機は日本を出発後、UNHCRがアラブ首長国連邦(UAE)のドバイとインチのマンハイに着陸し、停泊。航空自衛隊のC-2輸送機の使用を検討している。

松野博一官房長官は14日午後、記者会見で、派遣の調整